

奈良工業高等専門学校				グローバルエンジニア養成教育 プログラム(GEP) (ベーシックコース)								開講年度				令和03年度 (2021年度)											
学科到達目標																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0001	履修単位	1	1															朴 槿英						
一般	選択	異文化交流Ⅰ	0002	履修単位	1	集中講義																朴 槿英					
一般	選択	海外協働研修Ⅰ	0003	履修単位	1	集中講義																松井 良明, 朴 槿英					
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0001	履修単位	1				1	1												朴 槿英					
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0002	履修単位	1				1	1												朴 槿英					
一般	選択	異文化交流Ⅱ	0003	履修単位	1				集中講義													朴 槿英					
一般	選択	海外協働研修Ⅱ	0004	履修単位	1				集中講義													松井 良明, 朴 槿英					
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0001	履修単位	1							1	1									朴 槿英					
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0002	履修単位	1							1	1									朴 槿英					
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0003	学修単位	2							2										朴 槿英					
一般	選択	異文化交流Ⅲ	0004	履修単位	1							集中講義										朴 槿英					
一般	選択	海外協働研修Ⅲ	0005	履修単位	1							集中講義										松井 良明, 朴 槿英					
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0006	学修単位	2							2															
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0001	履修単位	1										1	1						朴 槿英					
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0002	履修単位	1										1	1						朴 槿英					
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0003	学修単位	2										2							朴 槿英					
一般	選択	異文化交流Ⅳ	0004	履修単位	1										集中講義							朴 槿英					
一般	選択	海外協働研修Ⅳ	0005	履修単位	1										集中講義							松井 良明, 朴 槿英					
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0006	学修単位	2										2												
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0001	履修単位	1													1	1			朴 槿英					
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0002	学修単位	2													2				朴 槿英					
一般	選択	異文化交流Ⅴ	0003	履修単位	1														集中講義				朴 槿英				
一般	選択	海外協働研修Ⅴ	0004	履修単位	1														集中講義				松井 良明, 朴 槿英				
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0005	学修単位	2													2									

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	英語アクティブラーニング I
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	ALC NetAcademy Next				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 指定コースにおける学習レベル	計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、英語の資格試験を受験し、想定レベルに到達することができた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。				
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。				
注意点	関連科目：英語関連科目 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベルに到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
				☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了する。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	異文化交流 I
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	1	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。		異文化理解に対して高い意識をもっている。		異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢で国際交流プログラムに参加し、英語による日本文化と学校紹介、海外学生とのコミュニケーションを通してグローバル感覚を身につける。				
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における3つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、海外学生との国際交流プログラムにおいて学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をポスターにまとめる。				
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および文化に関連する科目 学習指針：英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. 香港、台湾、シンガポール人学生とのオンライン国際交流の準備のための活動 学校・文化紹介用の英作文、PPTおよび動画制作、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、海外交流校の学生との受入準備活動を行う。 3. 香港・シンガポール人学生とのオンライン国際交流事業、準備活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	後期の到達目標参照	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			

後期		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. 香港、台湾、シンガポール人学生とのオンライン国際交流の準備のための活動 学校・文化紹介用の英作文、PPTおよび動画制作、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、海外交流校の学生との受入準備活動を行う。 3. 香港・シンガポール人学生とのオンライン国際交流事業、準備活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきかを考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	課題提出	参加・評価	提出物の完成度	合計	
総合評価割合	50	30	20	100	
基礎的能力	50	30	20	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	海外協働研修 I
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	1	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している, 国際交流等の報告発表会などが参考となる。				
担当教員	松井 良明,朴 槿英				
到達目標					
・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。 ・母語以外の外国語によるコミュニケーションを図ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。		異文化に対する理解がある。自国の文化について, 簡単な外国語で紹介ができる。		異文化に対する理解が不十分で, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について, 紹介できない。
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	海外の教育機関への語学留学, 短期・長期の海外研修, 国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに, グローバルマインドの育成, 異文化に対する理解力の向上, 外国語学習への意欲を高めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	本校や本校が認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他, 様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて, アクティブな実践活動を行う。 なお, 各自がプログラムの活動目標を設定し, 積極的な態度で臨む必要がある。				
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備 (活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド、国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。) 学習指針: 研修先の参加者と積極的に交流し, 工学・技術の分野だけでなく, 文化について学が積極的な姿勢が求められる。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習としては、外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ, 日本語以外の言語による交流がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」(所定の様式)をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後, 速やかに「研修等終了報告書」(様式任意)「プログラム・要項」等, 研修内容等が記された書類「プログラム修了証書」など、関連書類を提出する。 研修報告会(12月頃予定)において研修成果を発表する。	・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる ・外国語によるコミュニケーションを図ることができる	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	報告書	報告会での発表	合計	
総合評価割合	50	50	100	
基礎的能力	50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	英語アクティブラーニングⅠ	
科目基礎情報							
科目番号	0001		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		1		
教科書/教材	ALC NetAcademy Next						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、資格試験で想定レベルに到達できた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の内滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。						
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。						
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。			・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。	
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		60	40	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	英語アクティブラーニングⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	2			
開設期	通年		週時間数	1			
教科書/教材	ALC NetAcademy Next						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、資格試験で想定レベルに到達できた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の内滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。						
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。						
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。			・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。	
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		60	40	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	異文化交流Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	2	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。		異文化理解に対して高い意識をもっている。		異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢で国際交流プログラムに参加し、英語による日本文化と学校紹介、海外学生とのコミュニケーションを通してグローバル感覚を身につける。				
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における3つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、海外学生との国際交流プログラムにおいて学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をポスターにまとめる。				
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および文化に関連する科目 学習指針：英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. 香港、台湾、シンガポール人学生とのオンライン国際交流の準備のための活動 学校・文化紹介用の英作文、PPTおよび動画制作、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、海外交流校の学生との受入準備活動を行う。 3. 香港・シンガポール人学生とのオンライン国際交流事業、準備活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	後期の到達目標参照	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			

後期		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. 香港、台湾、シンガポール人学生とのオンライン国際交流の準備のための活動 学校・文化紹介用の英作文、PPTおよび動画制作、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、海外交流校の学生との受入準備活動を行う。 3. 香港・シンガポール人学生とのオンライン国際交流事業、準備活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	課題提出	参加・評価	提出物の完成度	合計	
総合評価割合	50	30	20	100	
基礎的能力	50	30	20	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	海外協働研修Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	2	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している, 国際交流等の報告発表会などが参考となる。				
担当教員	松井 良明,朴 槿英				
到達目標					
・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。 ・母語以外の外国語によるコミュニケーションを図ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。		異文化に対する理解がある。 自国の文化について, 簡単な外国語で紹介ができる。		異文化に対する理解が不十分で, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。 自国の文化について, 紹介できない。
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	海外の教育機関への語学留学, 短期・長期の海外研修, 国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに, グローバルマインドの育成, 異文化に対する理解力の向上, 外国語学習への意欲を高めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	本校や本校が認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他, 様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて, アクティブな実践活動を行う。 なお, 各自がプログラムの活動目標を設定し, 積極的な態度で臨む必要がある。				
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備 (活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド、国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。) 学習指針: 研修先の参加者と積極的に交流し, 工学・技術の分野だけでなく, 文化について学が積極的な姿勢が求められる。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習としては、外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ, 日本語以外の言語による交流がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」(所定の様式)をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後, 速やかに「研修等終了報告書」(様式任意)「プログラム・要項」等, 研修内容等が記された書類「プログラム修了証書」など、関連書類を提出する。 研修報告会(12月頃予定)において研修成果を発表する。	・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる ・外国語によるコミュニケーションを図ることができる	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	報告書		報告会での発表	合計
総合評価割合	50		50	100
基礎的能力	50		50	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	英語アクティブラーニング I
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	ALC NetAcademy Next				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 指定コースにおける学習レベル	計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、英語の資格試験を受験し、想定レベルに到達することができた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。				
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。				
注意点	関連科目：英語関連科目 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベルに到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
				☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了する。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		60	40	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	英語アクティブラーニングⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	3			
開設期	通年		週時間数	1			
教科書/教材	ALC NetAcademy Next						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、資格試験で想定レベルに到達できた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の内滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。						
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。						
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。			・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。	
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		60	40	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	グローバルコミュニケーション
科目基礎情報						
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	Original Handouts					
担当教員	朴 槿英					
到達目標						
This lecture aims to encourage students to express their thoughts related to various social issues as well as to develop listening, speaking, reading, and writing skills needed to discuss in English fluently. 本講義では、英語で流暢に話し合うために必要なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルを伸ばし、様々な社会問題に関する考えを述べる力を養うことを目的とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
リスニング能力	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、おおむね理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができない。	
スピーキング能力	英語ニュースを聞き、内容についての確に話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についておおむね話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についての確に話すことができない。	
リーディング能力	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問におおむね回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができない。	
ライティング能力	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題についておおむね英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	This lecture serves as an practical communicative classes for students to develop English language skills needed to discuss social issues by using audiovisual materials. At the beginning of each class, a special dictation practice is served.					
授業の進め方・方法	The classes are basically in person with some dictation and reading comprehension practices, requiring 2/3 attention at weekly assignment tests. The contents and schedule are as shown below.					
注意点	Students are required to review for the assigned part of handouts for each class, and to practice short essay writing about current social issues.					
学修単位の履修上の注意						
事前学習：英単語調べはもちろん、各章の問題を「提出用ノート」に解答しておき、充実させたノートを提出できるようにしておく。 事後展開学習：授業中に作成した「板書用ノート」をみながら、復習し、クイズやテストに備える。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Class Introduction		To understand what and how to learn communicative English	
		2週	World News I , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		3週	World News II , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		4週	World News III , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		5週	World News IV , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		6週	World News V , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		7週	World News VI , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		8週	World News VII , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
	2ndQ	9週	World News VIII , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		10週	World News IX , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		11週	World News X , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		12週	Essay Writing & Discussion		To be assessed each level of understanding	
		13週	How to express each point of views about social issues		To understand the typical patterns of essay writing	
		14週	Final Assignment Test		To be assessed each level of writing	
		15週	Final Essay Writing		To be assessed each level of speaking	

		16週	Review	Finalizing & Evaluations			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
評価割合							
	Weekly Assignment		Essay Writing		Class Participation		合計
総合評価割合	60		30		10		100
基礎的能力	60		0		10		70
専門的能力	0		0		0		0
分野横断的能力	0		30		0		30

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	異文化交流Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	3	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。		異文化理解に対して高い意識をもっている。		異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢で国際交流プログラムに参加し、英語による日本文化と学校紹介、海外学生とのコミュニケーションを通してグローバル感覚を身につける。				
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における3つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、海外学生との国際交流プログラムにおいて学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をポスターにまとめる。				
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および文化に関連する科目 学習指針：英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. 香港、台湾、シンガポール人学生とのオンライン国際交流の準備のための活動 学校・文化紹介用の英作文、PPTおよび動画制作、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、海外交流校の学生との受入準備活動を行う。 3. 香港・シンガポール人学生とのオンライン国際交流事業、準備活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	後期の到達目標参照	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			

後期		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. 香港、台湾、シンガポール人学生とのオンライン国際交流の準備のための活動 学校・文化紹介用の英作文、PPTおよび動画制作、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、海外交流校の学生との受入準備活動を行う。 3. 香港・シンガポール人学生とのオンライン国際交流事業、準備活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきかを考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	課題提出	参加・評価	提出物の完成度	合計	
総合評価割合	50	30	20	100	
基礎的能力	50	30	20	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	海外協働研修Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	3	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している, 国際交流等の報告発表会などが参考となる。				
担当教員	松井 良明,朴 槿英				
到達目標					
・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。 ・母語以外の外国語によるコミュニケーションを図ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。		異文化に対する理解がある。自国の文化について, 簡単な外国語で紹介ができる。		異文化に対する理解が不十分で, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について, 紹介できない。
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	海外の教育機関への語学留学, 短期・長期の海外研修, 国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに, グローバルマインドの育成, 異文化に対する理解力の向上, 外国語学習への意欲を高めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	本校や本校が認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他, 様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて, アクティブな実践活動を行う。 なお, 各自がプログラムの活動目標を設定し, 積極的な態度で臨む必要がある。				
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備 (活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド, 国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど, 積極的な準備活動が必要である。) 学習指針: 研修先の参加者と積極的に交流し, 工学・技術の分野だけでなく, 文化について学が積極的な姿勢が求められる。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中, 英語および, 日本文化, 世界文化に関連する科目 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習としては, 外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング, スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては, 活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
				☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ, 日本語以外の言語による交流がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」(所定の様式)をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後, 速やかに 「研修等終了報告書」(様式任意) 「プログラム・要項」等, 研修内容等が記された書類 「プログラム修了証書」など, 関連書類を提出する。 研修報告会(12月頃予定)において研修成果を発表する。	・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる ・外国語によるコミュニケーションを図ることができる	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	報告書	報告会での発表	合計	
総合評価割合	50	50	100	
基礎的能力	50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	英語アクティブラーニング I
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	ALC NetAcademy Next				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 指定コースにおける学習レベル	計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、英語の資格試験を受験し、想定レベルに到達することができた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。				
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。				
注意点	関連科目：英語関連科目 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベルに到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
				☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了する。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	自学自習の取り組み状況		英語資格試験	合計
総合評価割合	60		40	100
基礎的能力	60		40	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	英語アクティブラーニングⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	4			
開設期	通年		週時間数	1			
教科書/教材	ALC NetAcademy Next						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、資格試験で想定レベルに到達できた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の内滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。						
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。						
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。			・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。	
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	自学自習の取り組み状況		英語資格試験	合計
総合評価割合	60		40	100
基礎的能力	60		40	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	グローバルコミュニケーション	
科目基礎情報							
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	4			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	朴 謹英						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	異文化交流Ⅳ
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。		異文化理解に対して高い意識をもっている。		異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢で国際交流プログラムに参加し、英語による日本文化と学校紹介、海外学生とのコミュニケーションを通してグローバル感覚を身につける。				
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における3つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、海外学生との国際交流プログラムにおいて学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をポスターにまとめる。				
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および文化に関連する科目 学習指針：英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. 香港、台湾、シンガポール人学生とのオンライン国際交流の準備のための活動 学校・文化紹介用の英作文、PPTおよび動画制作、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、海外交流校の学生との受入準備活動を行う。 3. 香港・シンガポール人学生とのオンライン国際交流事業、準備活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	後期の到達目標参照	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			

後期		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. 香港、台湾、シンガポール人学生とのオンライン国際交流の準備のための活動 学校・文化紹介用の英作文、PPTおよび動画制作、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、海外交流校の学生との受入準備活動を行う。 3. 香港・シンガポール人学生とのオンライン国際交流事業、準備活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきかを考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	課題提出	参加・評価	提出物の完成度	合計	
総合評価割合	50	30	20	100	
基礎的能力	50	30	20	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	海外協働研修Ⅳ
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している, 国際交流等の報告発表会などが参考となる。				
担当教員	松井 良明,朴 槿英				
到達目標					
・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。 ・母語以外の外国語によるコミュニケーションを図ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。		異文化に対する理解がある。自国の文化について, 簡単な外国語で紹介ができる。		異文化に対する理解が不十分で, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について, 紹介できない。
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	海外の教育機関への語学留学, 短期・長期の海外研修, 国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに, グローバルマインドの育成, 異文化に対する理解力の向上, 外国語学習への意欲を高めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	本校や本校が認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他, 様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて, アクティブな実践活動を行う。 なお, 各自がプログラムの活動目標を設定し, 積極的な態度で臨む必要がある。				
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備 (活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド、国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。) 学習指針: 研修先の参加者と積極的に交流し, 工学・技術の分野だけでなく, 文化について学が積極的な姿勢が求められる。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習としては、外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ, 日本語以外の言語による交流がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」(所定の様式)をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後, 速やかに「研修等終了報告書」(様式任意)「プログラム・要項」等, 研修内容等が記された書類「プログラム修了証書」など、関連書類を提出する。 研修報告会(12月頃予定)において研修成果を発表する。	・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる ・外国語によるコミュニケーションを図ることができる	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	報告書	報告会での発表	合計	
総合評価割合	50	50	100	
基礎的能力	50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	英語アクティブラーニングⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	5			
開設期	通年		週時間数	1			
教科書/教材	ALC NetAcademy Next						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、資格試験で想定レベルに到達できた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の内滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。						
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。						
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。			・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。	
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	自学自習の取り組み状況		英語資格試験	合計
総合評価割合	60		40	100
基礎的能力	60		40	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	グローバルコミュニケーション
科目基礎情報						
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	Original Handouts					
担当教員	朴 槿英					
到達目標						
This course aims to encourage students to express their thoughts related to various social issues as well as to develop listening, speaking, reading and writing skills needed to discuss in English fluently. 本講義では、英語で流暢に話し合うために必要なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルを伸ばし、様々な社会問題に関する考えを述べる力を養うことを目的とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
リスニング能力	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、おおむね理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができない。	
スピーキング能力	英語ニュースを聞き、内容についての確に話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についておおむね話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についての確に話すことができない。	
リーディング能力	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問におおむね回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができない。	
ライティング能力	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題についておおむね英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	This course serves as an practical communicative classes for students to develop English language skills needed to discuss social issues by using audiovisual materials. At the beginning of each class, a special dictation practice is served.					
授業の進め方・方法	This course is centered on a lecture, and some oral presentations with question and answer session. The contents and schedule are as shown below.					
注意点	Students are required to review for the assigned part of handouts for each class and to prepare presentation slides and scripts about current social issues.					
学修単位の履修上の注意						
事前学習：英単語調べはもちろん、各章の問題を「提出用ノート」に解答しておき、充実させたノートを提出できるようにしておく。 事後展開学習：授業中に作成した「板書用ノート」をみながら、復習し、クイズやテストに備える。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Class Introduction		To understand what and how to learn communicative English	
		2週	World News I , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		3週	World News II , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		4週	World News III , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		5週	World News IV , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		6週	World News V , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		7週	World News VI , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		8週	World News VII , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
	2ndQ	9週	World News VIII , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		10週	World News IX , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		11週	World News X , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		12週	A Written Examination		To be assessed each level of understanding	
		13週	Test Review, How to express the thoughts about social issues		To understand how to give a successful presentation	
		14週	Final Presentations (1)		To be assessed each level of presentation	
		15週	Final Presentations (2)		To be assessed each level of presentation	

		16週	Review	Finalizing & Evaluations			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	Test	Oral Presentation	Report				合計
総合評価割合	40	30	30	0	0	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	0	40
専門的能力	0	0	30	0	0	0	30
分野横断的能力	0	30	0	0	0	0	30

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	異文化交流Ⅴ	
科目基礎情報							
科目番号		0003		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年		5	
開設期		集中		週時間数			
教科書/教材		Original Handouts					
担当教員		朴 槿英					
到達目標							
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
異文化理解力		異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。		異文化理解に対して高い意識をもっている。		異文化理解に対する意識が不十分である。	
グローバル・コミュニケーション力		異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		異文化に関するオープンマインドな姿勢で国際交流プログラムに参加し、英語による日本文化と学校紹介、海外学生とのコミュニケーションを通してグローバル感覚を身につける。					
授業の進め方・方法		講義により、「異文化理解」における3つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、海外学生との国際交流プログラムにおいて学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をポスターにまとめる。					
注意点		異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および文化に関連する科目 学習指針：英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。					
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. 香港、台湾、シンガポール人学生とのオンライン国際交流の準備のための活動 学校・文化紹介用の英作文、PPTおよび動画制作、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、海外交流校の学生との受入準備活動を行う。 3. 香港・シンガポール人学生とのオンライン国際交流事業、準備活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施			後期の到達目標参照	
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					

後期		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. 香港、台湾、シンガポール人学生とのオンライン国際交流の準備のための活動 学校・文化紹介用の英作文、PPTおよび動画制作、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、海外交流校の学生との受入準備活動を行う。 3. 香港・シンガポール人学生とのオンライン国際交流事業、準備活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	課題提出	参加・評価	提出物の完成度	合計	
総合評価割合	50	30	20	100	
基礎的能力	50	30	20	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	海外協働研修Ⅴ
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	5	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	なし				
担当教員	松井 良明,朴 槿英				
到達目標					
1. 異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。 2. 英語をはじめとする、母語以外の外国語を使って、一定のコミュニケーションを図ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。		異文化に対する理解がある。自国の文化について、簡単な外国語で紹介ができる。		異文化に対する理解が不十分で、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について、紹介できない。
英語コミュニケーション力	英語をはじめとする、母語以外の外国語を使って、一定のコミュニケーションを図ることができる。		英語をはじめとする、母語以外の外国語を使って、ある程度コミュニケーションを図ることができる。		英語をはじめとする、母語以外の外国語を使ったコミュニケーションを図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	グローバル化が叫ばれている現在、海外の教育機関への語学留学、短期・長期の海外研修、国際交流プログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに、国際的な視野の涵養，異文化に対する意識の向上、学習への意欲を高めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	本校が実施する国際交流プログラムの他、他機関主催の海外派遣プログラムなどにおいて、研修先で用意された研修内容を体験することになる。 なお、研修先においては各自が目標を設定し、積極的な態度で臨む必要がある。				
注意点	関連科目 これまでの英語の学習内容だけでなく、歴史や文化に関する幅広い知識が求められる。 学習指針 研修先の参加者と積極的に交流し、工学・技術の分野だけでなく、文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 夏季休業期間中もしくは学校に認められた期間 2. 実施期間 5日間以上および合計30時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ、日本語以外の言語による交流がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 (国外) 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」(所定の様式)をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後、速やかに「研修等終了報告書」(様式任意)「プログラム・要項」等、研修内容等が記された書類「プログラム修了証書」を提出する。 研修報告会 (10月頃予定) において研修成果を発表する。	1. 異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる 2. 英語をはじめとする母語以外の外国語を使って、一定のコミュニケーションを図ることができる。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			

後期		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		報告書	報告会での発表	合計	
総合評価割合		75	25	100	
基礎的能力		75	25	100	